

【席 順】

	鈴木	新田	太田	和田	
野田					中野
大石					小倉
亀井					小笠原
二ノ坂					石賀
伊藤					長尾
原口					

日 時	2016年 7月 2日 (土) 12:30~13:30		
場 所	ウインクあいち 908会議室		
出席者	新田 國夫	東京	新田クリニック
	鈴木 央	東京	鈴木内科医院
	太田 秀樹	栃木	医療法人アスミス
	和田 忠志	千葉	いらはら診療所
	中野 一司	鹿児島	ナカノ在宅クリニック
	小倉 和也	青森	はちのへファミリークリニック
	小笠原 文雄	岐阜	小笠原内科
	大石 明宜	愛知	大石医院
	亀井 克典	愛知	きくぞの内科在宅クリニック
	石賀 丈士	三重	いしが在宅ケアクリニック
	長尾 和宏	兵庫	長尾クリニック
	二ノ坂 保喜	福岡	にのさかクリニック
	伊藤 大樹	福岡	あおばクリニック
陪席	野田 正治	愛知	野田内科小児科医院
	原口 真		国立長寿医療研究センター
議題等	1 開会 挨拶 新田國夫会長 2 出席世話人の近況・活動等 報告 3 議事 【報告事項】 ◎ 事務局 平成27年度決算報告・新世話人紹介・入会状況等 ◎ 教育・研修局 報告 ◎ IT・コミュニケーション局 報告 ◎ 調査・研究局 ◎ 第3回(平成27年度)全国大会について 平成28年3月12日・13日 東京 ◎ 第4回(平成28年度)全国大会について 平成28年7月2日・3日 名古屋 ◎ その他		

	<p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 第5回（平成29年度）全国大会 平成29年5月27日・28日 ステージンコンファレンス東京 ◎ 第1回全国在宅医療医歯薬連合会全国大会について ◎ その他 ◎ 次回世話人会議開催日程について
<p>議事等</p>	<p>太田：これから、平成28年度第1回世話人会議を始める。この後の全国大会も、よろしくお願 いします。</p> <p>新田：今回、初めて名古屋で全国大会を開催するにあたり、野田先生・大石先生はじめ多くの名 古屋の皆様にご尽力を頂いている。ありがとうございます。厚生労働省も、新しい体制も含 めて、オールジャパンで在宅医療をさらに進めようという気概が進んできている。様々な課 題もあるが皆様の努力で日本に在宅医療を進めていきたいと思う。よろしくお願います。</p> <p>太田：近況報告をお願いします。</p> <p>長尾：昨年の近畿在宅医療推進フォーラムでは、「“ピンピンコロリ “って無理なん知っとう？” という寸劇を、近畿の在宅従事者オールキャストで演じた。一般市民も含め非常に多くの方 に来ていただき、また、ビデオで公開もしている。その劇を作っていく過程での学びが非常 に多く、忙しい合間を縫って、何度も練習したこと自体も良かった。</p> <p>太田：在宅医療は、患者・家族そして地域を見る、という事。長尾先生の地域活動に頭が下がる。 大石：愛知県豊川市では、在宅サポートセンターを医師会に設置している。豊川市民病院の元看 護局長がコンダクターをしている。昨年は、豊川市民病院の認定看護師が訪問看護ステーシ ョンに一週間研修にでている。今年は、真皮を超える褥瘡があるまま在宅に戻った場合、初 回の訪問診療又は訪問看護の時に褥瘡の認定看護師が同行するという試みが始まった。ま た、秋からは、入院中の治療方針を決定するカンファレンスに訪問看護師が参加して、退院 後の生活を想定したカンファレンスを行う予定。現在準備中。</p> <p>二ノ坂：福岡市の医師会を中心に在宅医療医会というのが、昨年の11月に出来た。第1回の勉 強会では、永井先生を講師にお招きし講演会を行った。医師会の会合としては多く、180 名程の参加があり、多職種での話し合いが行われた。また、県や市との話し合いも少しずつ 進んでいる。2つお知らせがある。10月29・30日九州在宅医療推進フォーラムを宮古 島で開催する。来年2月4・5日に日本ホスピス在宅ケア研究会の全国大会を福岡県久留米 市にて行う予定。大会長として開催するため、皆様にもご協力をお願いしたい。</p> <p>中野：今年は、9月18日・19日にNPO在宅ケアを支える診療所市民全国ネットワークの全国 の集いが、鹿児島で開催される。</p> <p>新田：東京都には、在宅医療推進協議会というのがある。その下に看取り検討部会というのが今 年度の予算でできた。それに2つの分科会があり、一つは医師向けのカリキュラム検討部会。 もう一つは、多職種向け検討部会と看取りの家の定義をどう作るか、東京都独自の定義を作 る、1人あたり24,000円さらに、1施設120,000円という予算が通っている。今年の9月 までに体制を整えて、開始する予定。病院だけでなく施設も含めて、どんな所でも看取れる 体制を作ることを東京で行う。まずは東京で試みるという事。</p> <p>太田：皆様の活動を伺うと、各地で大きな動きがある事が分かる。</p> <p>議事に移る。今年度からの新世話人は、本日はみなさんご欠席ですが、静岡の岡慎一郎先 生、長崎の安中先生、宮崎の石坂先生です。将来的には、各県に世話人を置いて、それぞ れの都道府県で頑張っていただきたいと思っている。名簿の空欄の県については、気骨のある 先生がいらしたら、是非ご推薦頂きお仲間になっていただきたい。入会状況については、微 増。決算報告について、決算報告書をご覧ください。脆弱な財政基盤の中、頑張っている。</p> <p>長尾：近畿にも2府4県にそれぞれ多くの世話人となるべき立派な先生がいらっしゃる。みなさ まをお連れして良いものか、迷っていた。また、県に2人の県もあるが、その定義はどのよ うになっているか。</p> <p>太田：少し前に議題に挙がった。日本の県は100万から200万人の人口規模が多いが、800万人</p>

の県もあり、その分世話人の数が増えても良いだろう。かっちりと何万人に1人という決め方はせず、弾力を持たせるという事になっている。ご推薦いただき、世話人会の皆様にお諮りし、承諾が得られれば、是非お仲間に入っていただきたい。

長尾：近畿地区については、そのような方向で進めさせていただく。

太田：ほかになければ、教育・研修局からの報告事項に移る。

和田：活動報告については、前回とほぼ変わらないので、資料をご確認ください。

活動計画について、まず、在宅医療推進フォーラム地方版について、今年度も各地で調整を進めている。在宅医療関連講師人材養成事業というのは、厚労省からの委託事業を勇美記念財団が受託し、日本在宅ケアアライアンスと勇美記念財団で、日本医師会にて研修会を実施している。連絡会の教育局と事務局とで関わって作っている。本日の資料にて詳細をご確認ください。これを来年度も継続して行っていく予定。ご出席いただくと、今後作る予定の講師リストに載る。世話人の先生方にも可能であれば、医師会を通じてご出席いただき、講師リストに載って頂きたい。各県の在宅医療推進の講師になっていただきたい。

次に、病院から在宅医療への連携の研修会を行っている。退院時カンファレンスの研修会や病院から在宅へどのようにうまく返すかといったことの研修会、つまり、病院から在宅医療への連携の研修会で2時間から2時間半ほどのプログラム。これを国立長寿医療研究センターと連携し日本各地で行っている。今度、野田先生のご尽力により、愛知県と愛知県医師会のご協力のもと、愛知県の15か所で行えることになった。厚生労働省も関心を持たれている。勇美記念財団から出資があり、開催できている。先生方の地域でも病院と連携して、退院時カンファレンスの研修会を希望されれば、あと、1～2か所であれば開催可能。

臨床研修医のための在宅医療研修会を国立長寿医療研究センターでやることになった。臨床研修や後期臨床研修で在宅医療の研修プログラムを持っていない研修医の先生に来ていただいて、在宅医療のいろはを学んでいただく。この研修を受けて、実際に在宅医療を見てみたいと思った方が、実地にて研修を行えるような医療機関を募集したところ、100か所以上の医療機関の先生方がリストに応募していただき、立派なリストが完成する予定。この研修会で、配布を予定している。先生方の医療機関に研修に来るかもしれないので、その際は、よろしくをお願いします。

討議していただきたい事項、全国のブロック分けについて、現在、群馬・栃木・茨城・埼玉・千葉までが北関東ブロックに分けられている。東京は、一つのブロック。神奈川は、南関東ブロックとして一つのブロック。甲信越ブロックが、新潟・長野・山梨。東海北陸ブロックは、石川・富山・福井・岐阜・愛知・静岡となっている。他は省略させていただくが、今問題なのは、岡田先生のご尽力で神奈川県だけで南関東ブロックをやってきたが、1県でやるのは苦しいところがある。再度、南関東ブロックを見直したい。静岡と神奈川で行っても良いかと考えたが、静岡は東海のほうが望ましいというご意見もある。南関東ブロックについて、今まで通り神奈川だけで行っていくか、東京都と行うのが良いか、千葉と神奈川で行うのが良いか、皆様のご意見を伺いたい。岡田先生は、本日ご都合が合わずご欠席であるが、先ほど電話があり、今後も神奈川だけでも開催していても良いとのご意見を伺った。会長・副会長・事務局長はじめ皆様のご意見を伺い、今後調整していきたい。

太田：皆様のご意見をお聞かせ頂きたい。杓子定規に分ける必要もないが、一つの県で行っていくとなると、毎年のことになるので負担が大きくなるということもある。

小笠原：やはり静岡は、文化的にも東海かと思う。

和田：現在、在宅医療推進フォーラムの開催で苦労が大きいのは東京かと思う。会場費が高く、また、地方に行くと県庁や県医師会との存在距離が近く会場も関連の場所が借りやすいが、東京はそういったところと距離感がある。100万円の値打ちが地方とは全く違う。そのような意味を含めると、東京都と神奈川を一緒に行うのはいいと思う。同時開催という事で、200万円の助成を受けるのも良いかと思う。

鈴木：東京は、今年から医師会の会場を借りられることになった。他の県と一緒に開催していく

ことも視野に入れても良いかと思う。事務局となってくださった英先生のご意見もお伺いしつつ新たな枠組みを決めていくのが良いと思う。個人的な意見では、埼玉県をできるだけ早く立ち上げていただいて、南関東という事で、埼玉・東京・千葉・神奈川でまとまってはどうか。埼玉を戦略的に考えてもよいのではないかと考える。

太田：地理的なこともあるが助成金の関係で、11ブロックに助成金が出ることになっている。それぞれの風土に合った分け方が妥当だと思う。皆様からのご意見を伺ったので、今後検討を進める。問題は、良質な在宅医療が地域で推進されるという事が目的。

第3回全国大会の報告を鈴木先生からお願いします。

鈴木：約600名の参加があり、運営的にも黒字に終わった。皆様のご協力ありがとうございました。

太田：本日これからの第4回全国大会について、野田先生お願いします。

野田：事前登録が756名あった。ご協力ありがとうございました。運営に当たり失礼が出てしまうかもしれないが、皆で頑張ります。よろしくをお願いします。

太田：その他で、厚生労働省が主導的に行政と我々実践者と学術関係者をつないで、どうやら在宅医療をうまく進められるかという、いわば戦略会議がいよいよ始まる。配布資料は某新聞社から手に入れたが、その資料の在宅医療提供者と学術関係者のところに、日本ケアアライアンスと在宅医療推進会議というのがある。在宅医療推進会議というのは、国立長寿医療研究センターの総長が招集して8年にわたり10回ほど開催してきた歴史があるが、これにステークホルダーを大きくして国が主導で行っていく。日本在宅ケアアライアンスというのは、厚生労働省から大きな期待を受けているが、主導的なのは我々の連絡会である。勇美記念財団のお力添えが大きい、多職種協働が重要という事で18の団体が加入している。新聞等報道でも大きく扱われるかと思うが、全国在宅医療会議が7月6日に行われる。目的も明確化されている、ご期待いただきたいし、また、お力添えも頂きたい。

野田：開催の頻度は。

太田：年2回。目的に、エビデンスの蓄積を推進するともあるように、予算がつけば各ふさわしい団体に研究依頼等がある。合意形成の場であり、直接この会議で何かを行うものではない。これだけの人が協力し、在宅医療を推進しよう、という会議。日本緩和医療学会に関しては、日本在宅ケアアライアンスへの加盟希望のお申し出があり、日本在宅ケアアライアンスの代表者会議にて諮ったが、病院医療に特化しているという事と主な執行部がほとんど病院の医師であり在宅医療の実践者がいないため、反対意見が聞かれた為、加入は見合わせる事になった。今後アライアンスへの加盟団体が増えることが予想され、日本在宅ケアアライアンス協力機構というのを新たに組織し、そこに迎え入れようと準備中である。協力機構は今年の11月23日を目標に組織化する。つまり、日本在宅ケアアライアンスは実践者の集まり、日本在宅ケアアライアンス協力機構は在宅ケアの重要性を認識し在宅ケアの推進に協力的な団体というすみわけになる。

協議事項に移る。第5回全国大会について、今回の抄録集の最後のページにチラシを掲載している。全国在宅療養支援歯科診療所連絡会 第5回全国大会、全国薬剤師・在宅療養支援連絡会 第8回学術研修大会との同時開催で、第1回全国在宅医療医歯薬連合会として、東京ステーションコンファレンスにて行う。第5回全国大会の大会長について、事務局としては、東京開催のため東京近郊で相応しい先生を考えたが、いらはら診療所の苛原実先生をご提案したい。苛原先生は、在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワークの会長でもいらっしゃる。さらに、ネットワークが太いものが築けると思う。理念は共有されている。苛原先生に第5回全国大会の大会長をお願いすることでご了解いただけるか。 →承認

大石：明日の閉会式の際、次年度の大会長苛原先生にご挨拶頂きたいが。

和田：明日は参加予定にしている。

太田：整理すると、第1回全国在宅医療医歯薬連合会全国大会の大会長は、新田先生。第5回全国大会の大会長は、苛原先生で開催することとする。2大会の同時開催。

	<p>次に、第1回全国在宅医療医歯薬連合会全国大会について、ご報告となるが、歯科の会長と薬剤師会の会長と我々の新田会長を中心とした会長会議を行い、誰が第1回の大会長として相応しいかと議論した結果、新田会長に決まった。今後は、持ち回りになるかと思う。連合会の大会も、回を重ねていきたいと思っている。開催場所について、今回は東京だが地方で行う意義も非常に大きいので、今後の開催についても皆様のご意見を伺いながら進めていきたい。</p> <p>亀井：今後の連絡会の全国大会も連合会の大会と同時開催にするのか。</p> <p>新田：以前の世話人会において、別々で行ったほうが良いのではないかという意見も伺っているが、いかがでしょうか。在宅医療は多職種ですすめるものなので、多職種で行う意義が大きいと考える。</p> <p>亀井：今回の大会のテーマも多職種協働であり、良いことだと思う。</p> <p>太田：各連絡会の会長会議の意向も伺いながら、できれば同時開催で進めていきたい。来年（平成29年）は、5月27日・28日なので、第2回が継続できるのであれば、平成30年の同時期の開催を考えていきたい。</p> <p>その他、協議事項・発議があれば伺いたい。</p> <p>和田：第5回全国大会の大会長が苛原と決まった際の案を聞いてきている。素案であるが、皆様にご意見を伺ってきてほしいと言われている。一日目の午後と二日目の午前午後の一泊を500人くらいの会場一列で行うことになっている。苛原の考えているテーマ案、一日目は診療報酬の議論、二日目午前は新規世話人の活動とブロックフォーラムの今後について、午後は24時間対応・一人開業・僻地医療と緩和医療について考えている。連合会からの要望で、歯科医師・薬剤師も出席できる内容で構想している。</p> <p>太田：詳細については、実行委員を立ち上げてそこで議論していただく。⇒承認</p> <p>和田：新世話人の岡先生・安中先生・石坂先生・大和先生と、今日ご出席の石賀先生の5人で一つセッションを持っていただきたいと考えている。</p> <p>新田：先ほど長尾先生が、近畿地方でも世話人をご推薦くださるというお話もあったので、そういった方にご登壇いただければどうか。</p> <p>太田：新しい先生方を発掘し、スポットライトを当てていきたいと考えている。フレッシュな意見を述べていただきたい。</p> <p>太田：次回世話人会について、例年は、11月23日在宅医療推進フォーラムの前日に東京で開催してきているが、今年は前日が平日でみなさん診療があるかと思いつている。</p> <p>11月22日（火）夜7時頃からか、11月23日（祝）在宅医療推進フォーラム終了後。</p> <p>鈴木：ランチタイムに設けてはどうか。</p> <p>和田：他の顔合わせ等、会長は調整が難しいのでは。</p> <p>太田：11月23日在宅医療推進フォーラム終了後に東京ビッグサイト近郊で行う。⇒承認</p> <p>その他、ご発言があれば。</p> <p>長尾：週刊朝日のムックにて、我々が厚労省に届けた宅看取り数が公表されているが、がん専門や神経難病専門、また、施設専門や自宅専門などが混在している。がん・非がん、自宅・施設と届出を分けた方が、在宅医療の質などが良く分かるのではないかと思っている。届出用紙について連絡会として提言したら良いかと思っている機会があればご検討いただきたい。</p> <p>太田：重要な視点で、在宅医療の質を図るパラメーターとして何が妥当か、という議論にもつながる事。数字だけが独り歩きしてしまう懸念があるという事でしょうか。全く同感であり、今後考えていきたい。</p> <p>太田：以上で、平成28年度第1回世話人会議を閉会する。</p>
資料	<p>○議事次第 ○一般社団法人 全国在宅療養支援診療所連絡会 世話人名簿・会員状況</p> <p>○一般社団法人全国在宅療養支援診療所連絡会 平成27年度 第8期 事業及び決算報告書</p> <p>○教育・研修局より ○全国在宅療養支援診療所連絡会 平成27年度第3回社員総会 議事録</p>
事務局	岩本 佳代子

